



富士通株式会社 代表取締役社長

山本正巳

## Human Centric Intelligent Societyへ

ICT企業の社会的責任として、持続可能な地球と社会の発展と安心・安全なデジタル社会づくりに貢献していきます。

### 持続可能な社会の実現へ

ICTは世界の人々をつなぎ、様々なアイデアと機会を生み出しました。ICTの革新的な活用により加速したグローバル化は、この20年間で世界経済を約3倍に成長させました。しかしその一方で、気候変動や自然災害の激化、人口増加に伴う食糧や水、エネルギー不足への懸念など、多くの連鎖した社会課題が顕在化しているのも事実です。これらの危機は、私たちに他を犠牲にした利益の追求ではなく、持続可能でインクルーシブ（包括的）な発展を目指すべきことを示しています。

### 「ICTの力」を強化していく

富士通グループは、「ICTの力」によって、持続可能な地球と社会の実現に貢献すること、デジタル社会の安心・安全を維持・強化していくことをグローバルICT企業としての社会的責任と考えています。

利用シーンの拡大と性能の向上により、ICTは今、ビジネスを効率化し、社会インフラを支えるツールという位置づけを超えて、膨大なデータから「知」を生み出し、「より良い社会への変革」や「人々の能力向上」をドライブし始めました。富士通グループは、誰もがICTにより最大限の可能性を引き出し、社会が持続的に成長していく世界「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」を中期ビジョンに掲げています。そして多くの人々と共に、ICTの力を活用してエネルギーや交通、食糧、健康、環境、教育分野の課題解決を実現するソーシャル・イノベーションの創造を目指していきます。

ICTの普及により日々の生活とデジタル社会が融合し、様々な機会がもたらされますが、一方で、私たちはICTの急速な普及によって新たな課題にも直面しています。

国境を越えて増加し続けるサイバー攻撃やプライバシー保護などへの早急な対応は、グローバルICT企業の責務です。富士通グループは、自社のシステム運用で培ったテクノロジーの活用を基本に、様々な関係機関と協働してこれらの問題に対応しています。

電力消費などICTの利活用がもたらす環境負荷の増大にも目を向ける必要があります。富士通グループは「第7期富士通グループ環境行動計画」を策定し、自らの環境配慮はもちろん、お客様・社会と協働し、ICTを活用した社会全体の温室効果ガスの削減など、環境に配慮した経営を進めています。

## 新たなイノベーションの共創へ

富士通グループは、ブランドプロミスである「shaping tomorrow with you」に基づき、ステークホルダーとの価値の共創を重視した経営を実践していきます。富士通は、引き続き国連グローバル・コンパクトの「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を支持するとともに、2012年度から、ISO26000の枠組みを活用してグループ会社の取り組み状況を確認していくなど、CSRマネジメントの強化に着手しています。

富士通グループは、これからもステークホルダーの皆様の期待と要請を踏まえ、新たなイノベーションを共創しながら、持続可能な社会の実現と地球環境の次世代への継承に努めてまいります。